スポーツくじ
toto
BIG

2022
No.103
Spring

Dance Dance Dance

ダンス ダンス ダンス

劇的な環境変化への対応とダンススポーツの未来

第3回全日本ブレイキン選手権報告と
2022年度の大会ストラクチャーについて

2022ダンススポーツグランプリ in 熊本







http://www.jdsf.or.jp

公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

来たときよりもキレイに!

世界に示す、クリーンジャパン

KEEP EVERYTHING
MORE BEAUTIFUL
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!





JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会

TOKYO 2020

劇的な環境変化への対応とダンススポーツの未来



公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
専務理事　**山田　淳**



はじめに、ウクライナへの軍事侵攻で被災された方、離散されたご家族の気持ちに寄り添い、亡くなられた方のご冥福をお祈り致します。悲惨な軍事侵攻が終結し、簡単な言葉では申し上げられませんがウクライナに平和と光に満ちた未来が戻ることを心より祈念しております。

本連盟では、ウクライナのダンス界再構築を支援するための募金を行っておりますので、特にダンスを愛する皆様のお心をお待ちしております。

中井眞一郎会長から布村幸彦会長へ



布村幸彦新会長

文部科学省スポーツ・青少年局長など要職を歴任された布村幸彦様が、2月20日の臨時社員総会を経て3月20日の理事会において会長に就任されました。

昨年6月の定時社員総会の時点では、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会常務理事・副事務総長としてご活躍中であり本連盟理事就任が困難でしたので、長年本連盟を支えて下さいました中井眞一郎副会長にご無理を申し上げて短期間のお約束で会長をお願いしていたところでした。中井会長（現会賓）にはコロナ禍の厳しい財務状況を乗り越え、全都道府県ダンススポーツ連盟による全ての都道府県スポーツ協会への加盟が2021年度中に成就できたことなど、多大なご指導を頂きました。

今後は、布村会長、市原副会長を中心とする有力な学識経験外部理事や顧問団のご指導を仰ぎながら、ダンススポーツの国体参加、オリンピック参加の準備とともに、環境変化に適応した新たなJDSFの構築に向かって邁進していきます。

劇的な環境変化とレジリエントな組織基盤へ

私たちはいま、コロナ問題や様々な社会環境の深刻な混乱と歴史的変化の最中にあります。じっと耐えて台風一過を待つ姿勢ではもはや元の繁栄には戻れないため、その後の社会環境が大きく変わることを予測しつつ、変化に柔軟に適応できるレジリエントな（変化を糧として創造的、包括的な問題解決を図れる柔軟で強靭な）組織に転換する時だと言われています。本連盟も今期から2年ほどを目標に積極的な転換を図っていきたいと考えています。

コロナ問題から多くのことを学びました。距離を超越した全国のオンライン会議が当たり前になり、情報共有により働き方も変わりつつあります。首都圏



第41回三笠宮杯のYouTube配信


YouTube実況解説ブースでの岡崎朋美理事

に集中していた運営中枢を分散化でき、全国の英知を効果的なネットワークで結ぶことができれば、知性・知恵の増幅によって連盟としての創造力、機動力が向上します。

これまで東京体育館などで満員の観客を集めて行ってきた三笠宮杯を、一昨年は無観客で行わねばならなくなり、YouTube配信を各種SNSで拡散する方法に挑戦しました。

事前およびリアルタイムでの応援メッセージは選手に力を与えるとともに、今まで観る機会が無かった全国津々浦々の方々にダンスの魅力が伝わることが分かり、協賛社様からも大好評でした。

昨年の第41回大会では有観客でYouTube配信も行うハイブリッド方式として実施しました。これからは会場でリアルに醍醐味を味わうディープなファンの数以上に、ダンス未知の多くの方々にダンスの魅力を拡散できるような企画を深めていきたいと考えています。

ここで、ダンスのYouTube配信に必要なシンクロ権（音楽著作権）の使用権を数多く取得したため、サブチャンネルを含めて多くの競技会映像を配信できるようになりました。

コロナ禍による緊縮財政の中で一度手放したDTC（DanceSport Training Center）についても、予定より早いですが今期から復活させ、ダンススポーツの大々的普及のためのSNS拡散基地として、新たな利用方法を検討していきます。

サークル活動も、コロナでダンスが認められない時期には、LINEなどによるダンス談義や、中高年の会員がお互いにスマホを教えあうなどしてコミュニティの継続努力がされてきました。スマホは今後の高齢者の生活にも（お孫さんとのコミュニケーションだけでなく地域の介護支援の場面でも）必需品になりつつあり、ダンスのコミュニケーションを超えて今後はデジタルを含めた絆、ふれあい、助け合いも、認定サークルの活動／県連活動の一部になっていくべきと思います。

社会環境の大きな変化の中で、デジタルコミュニティの形成は老若男女を繋ぐ組織強化の一つの大きな柱になることから、中高年のサークル／県連においても皆で助け合いながら普及していく方策を考えていきたいと思います。

直近の重点テーマ

戦略会議、委員会を構成してもう少し体系的にまとめていきますが、コロナ後にしっかり発展できるよう、健全な財政基盤の確保と併せて、概ね以下のようなことから始めたいと考えています。

〈1〉既存の主力事業のブラシュアップ（強化）

①都道府県連盟主催競技会の活性化に向けた方策の検討

②直轄事業としてのPDブロック競技会の業務サポート

③ブレイキンの事業活性化に向けた支援体制の整備

〈2〉メディア戦略とマーケティング活動

①TV露出を増やすタイアップ事業やSNS展開

②メディア露出を背景としたマーケティング活動と収益化

〈3〉全国での若年層会員の拡大と国体準備

図はブレイクダンス本部が策定したロードマップです。

ブレイキンの今後の課題として、地域での普及が重要になります。現在はブロック選手権から全日本選手権に繋がっていますが、国体参加を視野に、全ての都道府県大会から選考していくようなしくみを検討中です。そのために今期は各都道府県連盟との調整に入っていきます。

また、小中高の部活動や地域活動の中に入るために、ヒップホップカルチャーや広いジャンルの音楽への



ブレイキンのロードマップ

対応を含めて、ブレイキンや社交ダンスにもつながるようなクロスジャンルのダンス導入メソッドの開発を行うことについて、いよいよ具体的検討に入りたいと思います。

これにより「ダンス」をキーワードに都道府県連盟の若年層会員が増加し、その中からブレイキンや社交ダンスに進むジュニア層を少しでも引き出していきたいと考えています。

〈4〉会員制度の見直し

本連盟が創立した時からの古い会員制度では、現在の若年層のニーズにはついて行けないことが分かってきています。これについては組織変革委員会を中心に、ブロック運営委員会、全国加盟団体代表者会議などを通して慎重かつ積極的に検討を進めていく必要があると考えています。

〈5〉事務局機能の強化

本連盟の45年を超える歴史の中で、つぎはぎ的に事業が肥大化しており、そのためのバックオフィス機能が非効率的になっています。また、これ以上事務局機能を大きくしにくいことから、事業を牽引するフロントオフィス機能に対応できず、また環境変化に対応した新たな課題に対応しにくい組織になっていました。

コロナ禍での大幅な事業縮小と収入減に対応して、事務局活動もコストミニマムで対応してきましたが、この緊縮財政を続けながらも、今後のジャンプアップのための準備を開始する時と考えます。

この際、コロナ禍で急速に進んだデジタルによる情報共有のしくみを活用し、業務合理化とガバナンス&コンプライアンス視点を含めた業務フローの見直しを行うとともに、インボイス制度、電子帳簿保存法の適用も着実に行っていきたいと思います。

コロナ問題は未だ解決していませんので、収支ラインを読みながらも将来に向けた回復軌道に乗れるように、また未来対応の重要課題については積極的に進めていきたいと考えています。

終わりに、コロナで2年ほど遅れましたが、創立45周年記念式典を来年2月26日に京王プラザホテル新宿に於いてコストを削減して行います。新旧役員の引継ぎや感謝も兼ね、当日予定の加盟団体代表者会議では上述のような方針をもう少し具体的にディスカッションしながら、50周年に向けての新たなJDSFの姿を皆で共有して進めていければと考えております。

Japan DanceSport Federation

ウクライナ ダンススポーツ 活動支援のお願い

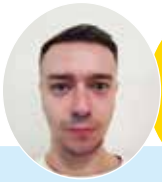
現在、ウクライナでは
日々のレッスンや競技会など、すべてのダンススポーツ活動が停止を余儀なくされています。

JDSF では、一日も早くこの侵攻が終結し、一日も早く平和な日常に戻れるよう、
WDSFウクライナダンススポーツ連盟の会員および選手、
さらにはそのご家族への寄付金を募ります。

ダンスを愛する皆さまもぜひ、あたたかいご支援・ご協力をお願いいたします。



オレクシー
グザー選手



ボルコフ
セルヒ選手

『私たちは共にウクライナのキーウ出身で、現在はJDSFの登録選手として日本を拠点に活動しています。連日のウクライナ侵攻の報道を見るたび、今もなおウクライナで暮らしている私たちの家族やダンス仲間の安否が気がかりでなりません。皆さまからの寄付金は、現地のウクライナ選手とその家族にとって、未来への希望となります。今こそ、行動をお願いいたします。』

−Please act now.

ご寄付の振込先について

口座名義

シヤ）ニホンダンススポーツレンメイ

振込口座

ゆうちょ銀行【記号】10160【番号】80141891
※他金融機関からお振込みの場合
【店名／店番】018【種目】普通預金【口座番号】8014189

ご寄付額

一口 ¥1,000- から ※振込手数料はご負担願います。

受付〆切：2022年8月31日（水）まで

皆さまからお預かりした寄付金は、
WDSFウクライナダンススポーツ連盟に全額届けさせていただきます。

※寄付金特別控除は受けられません。予めご了承ください。

事務所移転に伴う事務所休業期間のご案内

3月20日の理事会において、旧事務所とDTCとして使用していたNTT有明センタービル1階について、2022年4月よりDTCとしての利用再開と、8月までに現小伝馬町事務所のNTT有明センタービルへの再移転を行うことについて承認されましたが、事務所移転については以下の通り日程が決まりました。

日　程	作業内容
7/6（水）～ 7/7（木）	引越し準備期間
7/8（金）～ 7/9（土）	小伝馬町から有明へ引越し
7/10（日）	有明事務所 再開準備

事務所休業期間（予定）
7月6日（水）～7月10日（日）

皆さまにはご迷惑をおかけしますが、
ご理解のほどよろしくお願いいたします。
＊休業期間については日程が前後する場合があります。

国体正式種目化に向けた活動状況について



JDSF理事
組織変革委員長　中道　俊之

【47都道府県連盟が全て体協（スポ協）に加盟】

新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中、JDSF及び加盟団体である都道府県連盟はリアルに参集する競技会や会員向けの交流事業の中止や自粛を余儀なくされていますが、そのような中で明るいお知らせです。47都道府県全ての加盟団体が2022年４月１日をもって、それぞれの体協（スポ協）に加盟しました。

JADA創立以来の大目標であった国体参加の条件がクリアーされました。

【未加盟県の加盟実現までの状況】

この45年来の大きな目標達成は、全国各都道府県連盟の方々の血のにじむ努力の賜であることはいうまでもありません。この2年間の4団体の動きだけを見ても外部からの審査に耐え得るための都道府県連盟のガバナンスの見直し、PD組織とGD組織の統合に伴う規程類の見直し、ブレイキン会員との協力体制の構築等々関係した皆さんのご苦労は筆舌に尽くしがたいものでありました。

〈長崎県ダンススポーツ連盟〉

長崎県DS連盟は、2021年5月30日、従来の長崎県DS連盟（GD系）と長崎県スポーツ協会加盟団体である長崎県ダンス連盟（PD系）が8回の統合調整委員会を経て組織統合し、新たな長崎県DS連盟としてJDSFに加盟したことから名実ともに長崎県スポーツ協会加盟団体となりました。



長崎県打合せ

〈大分県ダンススポーツ連盟〉

大分県DS連盟は、18市町村中半分以上の加盟が必要という厳しい制約がありましたが、2017年度までに大分市、佐伯市、津久見市、2018年には別府市、2019年には中津市と日出町、2021年には、宇佐市、豊後高田市そして臼杵市も加盟したことから申請中であった加盟申請が2022年3月17日の大分県スポーツ協会評議員会で承認されました。

〈高知県ダンススポーツ連盟〉

高知県DS連盟は、2017年5月にJDSFの声がけのもと現地関係者で打合せをして以来条件整備に努めてきましたが、2021年6月から5回にわたる加盟支援会議を行うとともに地元関係者の総意で会員の再募集や役員体制の強化、ブレイキン関係者の協力によるイベントやJDSF中四国（西部）ブロックの支援で2回の競技会を開催、2022年3月23日の高知県スポーツ協会評議員会で承認されました。

〈広島県ダンススポーツ連盟〉

広島県DS連盟は、2009年と2017年にも加盟申請をしましたが同様の希望のある団体との組織統合等が条件とされ加盟には至りませんでした。その後、JDSFの（公財）日本スポーツ協会正加盟、国際連盟の相違による競技ルールの違い、さらにはパリ五輪参加の正式決定等さまざまな環境変化と地元県連盟の粘り強い説明が奏功し2022年3月24日の広島県スポーツ協会評議員会で承認されました。

【国体正式種目化に向けて】

公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）では、国民スポーツ大会（令和6〔2024〕年から大会名称変更）の実施競技について、4年ごとに見直しを行っており、今回第82回大会（令和10〔2028〕年）から第85回大会（令和13〔2031〕年）の実施競技に係る選定を実施し、選定結果を2022年3月末を目途に公表するとして、JSPOの国民体育大会委員会内に設置した「第4期実施競技選定ワーキンググループ」において、現在、検討を進めています。実施競技の選定にあたっては、各中央競技団体に対する書面調査が実施され、当連盟では3月11日に調査書を提出しました。

正式競技として選定されるためには、47都道府県スポーツ協会加盟が必須ですが、国体の規模を減らす方向にあることから他のスポーツとの比較で採用競技種目が決定されるため、各都道府県における競技会開催状況を含めた点数評価が行われるとされています。今後、各都道府県ごとの活動状況や関連施設等の整備状況等についてそれぞれの都道府県で調査が行われる可能性もあります。JADA創立以来の大目標であった国体参加に向け各都道府県連盟のさらなるご協力をお願い致します。

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟（JDSF）

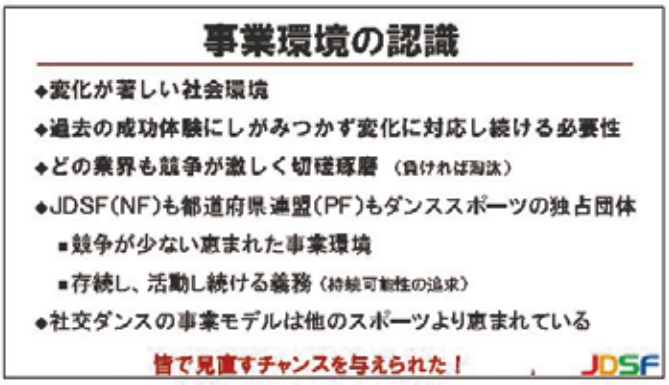
2021年度全国代表者会議

2022年2月20日（日）、同日に開催された臨時総会に続いて、「全国代表者会議」が開催されました。

14時に予定された会議開催に先立ち、13時45分からは岸尾政弘総務部長がZOOM会議の出席確認と会議オリエンテーション等の準備が実施され、全国代表者会議は定刻から開始となりました。

冒頭に準備された報告は「ダンス界の未来に向けた機構再構築について（夢と目標を全国で共有）」と題され、山田淳専務理事によるレクチャーでした。

テーマは、社交ダンス人口の高齢化／コロナ禍の長期化という厳しい環境に耐え未来へ。「ふれあい・集い・支え合い」が当然だったダンスサークル活動を、コロナ禍での「触れるな！ 集うな！ 距離をとれ！」に合致させるための方策を探ります。事業環境の認識のうえで、具体的には、オ



ンライン会議の定着⇒ 時空を超えた頻繁な意見交換/コストダウン、YouTube配信の立上げ⇒ 新たな価値提供の検討、デジタル・コミュニティ⇒ 若者に歩み寄りなどへの志向が取り上げられ、具体例としての「第41回三笠宮杯」の実施が紹介されました。ダンスの知名度向上へと向けたメディア展開として、毎日新聞とのコラボによる朝刊「スポーツ欄」への掲載で「メジャースポーツ扱い」「ブランド化」に加え、協賛社への説得材料化を志向しました。一方ではTV/YouTubeなどSNS連携も積極的に実施し、新聞という見識ある1日の問題提起と無料オンデマンド・ニュースという両方向のメディア展開でダンススポーツの知名度向上につなげたものです。

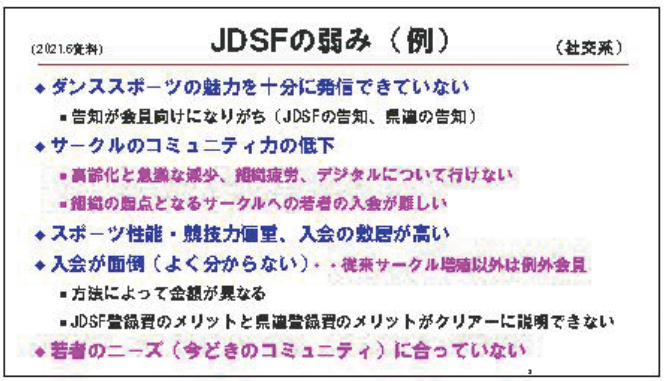
大会実施に際しては、徹底的な安全対策での有観客開催とし、SNSと実況解説連動企画で協賛企業によるプレゼント企画なども実施しました。



協賛企業によるプレゼント企画（三笠宮杯）

続いて、JDSFの強みと弱みから会員&サークルの高齢化を強く認識した上での202Xスマート社会へ向けた取り組みについての報告。急速なICT環境進展により、今後個人





JDSFの強みと弱み

レベルのIT環境平均値に組織がついて行けていない状況現出も考えられる中、JDSFでは地域組織機構の見直しとして、①デジタル・コミュニティ（年層別の対応）、②高齢者アナログ層への対応、と並んで、③国体準備（具体化）と④社交系とブレイキンとの総合力の発揮、⑤若者の活躍の場を作る、その一方で⑥高齢者でも楽しめるサービスの提供、⑦ダンス交流会（パーティ）事業、⑧指導員や資格制度による勉強したい人向けの事業、⑨先ずはJDSF改革／都道府県連盟改革を実施していくという報告がありました。最後に、新型コロナの影響で2年後ろ倒しとな「45周年記念事業」を2023年2月26日(日）に実施予定とし、会長交代、国体準備、オリンピック準備の新体制を進めていく方針が示されました。

続いては組織変革委員会の中道俊之理事からの「今後の都道府県連盟のあり方」。高齢化が根底にある組織の問題点が喫緊の組織改革を要請する中、大きな4つ現状認識、①都道府県連盟会員の変化（一般会員･PD会員･ブレイキン会員）、②ブレイキン会員の位置づけ等、③さらに進む高齢化と価値観の多様化、④持続不可能な会員構成があぶり出されます。それらに対しての都道府県連盟のありたい姿を（する）（みる）（ささえる）の3方向に分けて説明、次いで都道府県連盟の組織変革として、ガバナンスコードへの対応、会員の多様化や緊急事態に向けた規約、規程類の改正から若者に寄り添う行動変容等々を通じた代替わりロードマップについて示しました。

谷口主嘉デジタル・コミュニケーション推進部長は「コロナ下で進めるデジタル・コミュニケーションの推進」についてレクチャーされました。取り上げられたのは、①LINE公式の導入方法と②競技会等のYouTube動画配信について。いずれも今後のwithコロナでの組織運営・大会実施に大いに貢献する内容として出席者の関心を惹きつけるものでした。

約10分間の休憩を挟み、JDSFブレイクダンス本部の石川勝之ブレイクダンス本部長から、「BREAKINGの状況と今後の活動について」の報告が行われました。2024パリ五輪でのブレイキンに向けたフランス・パリでの「WDSF世界ブレイキン選手権2021」の報告（B-Girl金銀、B-Boy10位･16位）や、全国6ブロックで475名の参加があった「ブレイキン　ブロック選手権2021」と1月22-23日に渋谷ストリーム

WDSF 世界ブレイキン選手権2021 フランス/パリ



ホールで開催された「JDSF 第3回全日本ブレイキン選手権」の模様やメディア露出、各県連ブレイクダンス部の状況や2022年の活動スケジュールなどが説明されました。これに続き金子和裕事務局長から「Breaking会費の県連への会費のフィードバック」についての報告が行われました。

金子事務局長からは、引き続いてコロナ禍でのコスト削減と事業のあり方に関しての報告と説明が行われました。現状の公認料を財源とした全国への審判員旅費の仕組みが競技会数の減少により財政的に悪化しており、この審判員旅費全国プール制を維持するために行うべき点についての内容となりました。

全国代表者会議最後の報告は、佐倉文彦情報システム本部長による「今後のオンライン手続き（DX視点）について」でした。懸案だったJDSF全会員向けの競技会オンラインエントリーシステムが完成し、2021年末からの試行運用による良好な結果に伴い、2022年夏頃からは全競技会を対象に拡大していくという状況、「総合情報システム」の更改と「競技会申請システム」の新システムへの統合・更改予定、競技会オンラインエントリーにも対応するJDSFスマホアプリ（電子会員証）の利用促進などについての報告は、会議出席者の認識向上につながる内容となりました。

その後、会議は各報告事項へのディスカッションへと移り、定刻に無事閉会となりました。

（JDSF広報部長　佐藤篁之）



従来の会員証に各種機能が付加された電子会員証

祖国ウクライナの危機・試練に向き合い、三笠宮杯連覇中。海外でも大活躍 !!

オレクシー グザー&太田吏圭子組
(OLEKSII GUZYR & RIKAKO OTA)



2021年三笠宮杯全日本PDダンススポーツ選手権スタンダード優勝
(三笠宮杯は、2015年GDで優勝から前回の2021年PDまで連続６年優勝、現在も連覇中です)



ウクライナの子ども達と(ジュニアサークルの講習会)

４月17日開催のグランプリin京都のPDグランプリカップ スタンダードで、見事、優勝を果たす。ウクライナ支援活動は、JDSF西部ブロックでは既に大阪、滋賀、京都、和歌山の各県大会でも実施されていますが、この京都グランプリではオレクシーさんに谷口主嘉西部ブロック委員長から集まった支援金が贈呈され、「ウクライナのダンスを愛する選手、ジュニアたちの支援に有効に使わせていただきます」と心に沁みる挨拶があり、会場は、拍手! 拍手!! に沸きました。
(京都グランプリの詳細は次DDD104号に掲載予定です)

(JDSF広報部相談役　神宮周二)

Q 2月24日に始まったロシア軍のウクライナ侵攻について、オレクシーさんのご家族達の現況などは？

A ロシア軍がウクライナに攻撃を始め2か月が経過しました。オレクシーの家族(母、義理の姉とその息子)は、先日も実家のすぐ近くにロケット攻撃を受けたため、キーウ都心部からポーランド寄りに避難、今のところ安全に過ごしています。出来れば、オレクシーの家族にすぐにでも日本に避難させたいのですが、高齢の為に長距離の移動は困難なため国内のなるべく安全な場所に避難させています。オレクシーの多くの知人やダンス仲間はウクライナに残り、国を守るために活動しています。ウクライナのダンサーやその家族など国外に移動可能な知人にはSNSなどを通じて、安全でダンスを続けることが出来る環境を作るサポートをしています。

Q 子どもの頃からの環境、そしてカップル結成までの経過は？

A 吏圭子は小学一年生の時にダンスを始めました。きっかけは、祖父母が通う三軒茶屋にあるダンススタジオに一緒について行き、体験レッスンを受け大変楽しいと感じたことです。日本でジュブナイルやジュニアなどの競技会に出場し、中学を卒業後イギリスに留学しました。ダンスの為ではなく乗馬の為でした。オレクシーも同じように7歳からダンスを始めました。そのきっかけは女の子と一緒に踊れる事で、ウクライナでは4 - 5歳から習い始める子供が沢山いるので、周りの友達と一緒にレッスンに通っていたそうです。

Q カップルの出会いの頃の印象とか、さらにご結婚までの経緯も、よろしければ？

A 私達の出会いはDancesportsinfoというダンスの情報サイトでお互いにパートナー探しをしていて、オレクシーが生活していたマンチェスターに私が行き何回か踊り合わせをしました。私の第一印象は"目が青い!"でオレクシーの私の印象は"目が動く!"だったそうです(私のカラーコンタクトレンズが動いていた(笑))。お互いの第一印象は"目"みたいです。

私達が結婚したのは2020年のコロナ感染が進行し始めた年です。その年の頭にヨーロッパに遠征、フランス、イタリアやデンマークを廻り最後にオレクシーの母国によってから日本に帰国の予定でしたが、丁度、日本に帰国する直前にウクライナが国境閉鎖を始めたため、オレクシーは出発不可能となり私だけ日本に帰国しました。彼が日本に帰ってくるまでの約3か月間、お互いに会えない日々が続き、もうそんな思いはしたくない!!と思い、彼が日本に帰国後に籍を入れました。

Q 最近の活動のコンペやダンス活動、私生活はいかがですか？

A 4月17日に開催された京都グランプリPDで優勝させていただきました。長野や関西方面にも指導に行っています。2020年から始めているオンライングループレッスンや家で出来る筋トレなども継続しています。毎日が、大好きなダンスを中心に生活しているので、家に帰ればごく普通に主婦として家事をしていますよ。ウクライナへの支援金集めにチャリティーパーティーなどデモもさせていただいています。6月には初めて学連の競技会になりますが、全東北学連の夏山形大会に招かれています。



デンマークでの練習会にて

Q 世界中でコロナ禍が続いている状況ですが、海外の競技会は？



2021年 ドバイで開催された世界選手権

A 世界中で、まだまだコロナ感染が収まっていない状況ですが、昨年の三笠宮杯の後に、デンマークやドイツに遠征し調整した後に、ドバイで開催された世界選手権に出場してきました。ドバイの世界選手権は準決勝、ジャーマンオープンも準決勝、そしてアジア太平洋選手権では優勝です。

Q 思い出深い競技会があれば、理由も含めて、紹介してください。

A 印象に残っているコンペは、韓国で出場した競技会です。私達の師匠であり深く尊敬しているEmanuel Valeri&Tania Kehlet組なども出場していて、私の家族も応援に来てくれた競技会です。今まで勝てなかった選手にも勝つことが出来、師匠と同じ決勝の舞台でソロのワルツを踊りました。その時のソロは興奮していてあまり覚えていません。私達の師匠も“楽しんで踊る事ねˆｖˆ”とアドバイスしてくれたこと覚えています。

Q WDSF（World DanceSport Federation）アスリート委員会アジア代表、JDSFの理事を務めていますが、抱負を一言！

A ダンススポーツアスリートやダンス愛好家にとって、ダンスを続けていきやすい環境作りですね。



2021年JDSF強化選手練習会にて（後列左端）

Q その他、なにか加えることはありますか？

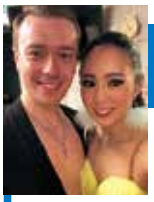
A ウクライナでは今も多くの人が犠牲になり、家を追われ、眠れない夜を過ごしています。この現状に、私達が所属しているリズメディアグループは、オレクシーとともにウクライナの人々の心に寄り添い、サポートをしたいという強い思いから、チャリティTシャツを予約販売しています。Tシャツは、私達のシルエットに、ウクライナの花「ひまわり」をデザインし、平和を望む強いメッセージを込めました。



ウクライナチャリティー Tシャツ

予約購入は▶https://www.mychoice-mylife.com/

Tシャツの売り上げは、必要経費を除いて全額ウクライナの人道支援に当て、オレクシーや現地の人々の声を聞き、必要とされるところへ寄付・支援させていただきます。また、MISIAがAmbassadorを務める一般財団法人mudefでは、ウクライナ人道支援の寄付とメッセージを受け付けています。mudefへのご協力もよろしくお願いいたします。
https://mudef.jp　　（Q&Aは、4月30日に作成）



ウクライナ出身JDSF西部ブロック　ボルコフ・セルヒー（Volkov Serhii）& 西山さくら組（兵庫県）

キーウ（キエフ）の実家の無事を祈り、感謝の気持ちを込めて踊ります。

【自己紹介】
ボルコフは、幼少期に少し社交ダンスをしていました。6年前に日本語を勉強する目的で来日し、近くにたまたまあったダンス練習場へ行ったことをキッカケに再び社交ダンスを復活しました。パール卸会社に勤務。
西山は京都府出身、母親の影響で社交ダンスを始めました。踊ることが大好きで、バレエやジャズ、ヒップホップなども経験しましたが、最も魅力的だった社交ダンスに惹かれました。2020年1月にカップルを結成、組んだ直後にコロナ禍となり、中止の競技会が続き、デビュー戦までに半年以上もかかりました。

【ウクライナの実家の現状について】
ウクライナは今、大変深刻な事態です。私自身も今年の1月に2年ぶりにウクライナへ帰国し、約1カ月間とても幸せな家族との時間を過ごすことができました。「戦争の前に帰国できてよかった」と思えたのは一瞬で、キーウ（キエフ）にいる家族が心配で毎日生きた心地がしません。現在、私の家族は、女性はヨーロッパへ、男性はキーウと西ウクライナに分散しています。実家の窓から戦車が見えたり、付近にロケットや爆弾が落ちたり…とても恐ろしい状況です。日本では流されていないウクライナのニュースを見て現状を知ると、心が痛み、沈みます。そんな中で、「笑顔で踊っていいのか……」と心が揺さぶられる毎日です。
しかし私は、ウクライナを信じる、ウクライナ軍人を信じる、ウクライナの外交を信じる、世界の協力も信じる！　ウクライナだけでは、戦争を起こした奴らを消せない。世界の応援が何よりも必要。私は今、日本の皆さんから心配やご支援のメッセージを毎日沢山いただき、試合会場でも声を掛けていただいたり、直接寄付をしてくださる方もいます。そんな全ての皆さんに心から感謝しています。

【今後の目標】
目標は、三笠宮杯で決勝に入ること。昨年もファイナルを目指し頑張りましたが9位という結果だったので、今年は何としても決勝に入りたいと思っております。今後も、セルゲイ・さくら組をどうぞよろしくお願い致します。



【戦歴】
2021.08.29 第3回PD大阪支部ダンススポーツ競技会A級戦ラテン優勝

全日本PD10ダンス選手権

併催　JDSF-PD九州ダンススポーツ競技大会 in 宗像

2022年3月20日(日)／福岡県宗像市(宗像ユリックス)



大会実行委員長
野上　宏哉

全日本PD10ダンス選手権、および併催のJDSF－PD九州ダンススポーツ競技大会 in 宗像はコロナ感染予防に十分配慮したうえで開催されました。そのためもあり、PD-10ダンス選手権は20曲のパフォーマンス中もマスク着用という、きびしい状況でのダンスとなり、選手には気の毒にも思われましたが、フローアサイドからの声援は盛大な拍手に変わり、そんなこと等いささかも感じられず、選手はもてる力を全て出し切った白熱した競技が繰り広げられました。

全日本PD10ダンス選手権

久保田弓椰・徳野夏海 組（PD北海道）

TEAM YUMIYA　北海道







結果は、やはり世界で十分に戦える実力のある久保田・徳野組の圧勝。準決勝、決勝とも10種目計20曲にわたり、1曲たりとも集中力が途切れることもなく、全力でのパフォーマンスは、この日参加した全300名以上の選手や役員スタッフ（残念ながら、コロナ感染予防のため無観客競技）を大いに感動させました。ラテンはカップル結成当初から素晴らしいものがありましたが、最近はスタンダードにおいてラテンをしのぐ勢いで実力がアップし、どちらも世界を相手に戦える、まさしくオールラウンドプレイヤーに成長したと思います。今後の活躍が大いに楽しみです。

見元克至・北畑香織 組（PD関東甲信越）

アサノダンススクール／タキガワダンススクール





しっかりしたテクニックでスタンダード、ラテンともに踊りこなしていました。小柄な選手ではあるが、それを感じさせないダイナミックなダンスを披露しました。

前田雅仁・宮崎　梢 組（PD西部）

まえだダンス倶楽部





スタイリッシュで特にスタンダードにおいては観るものをうっとりさせるような、表現豊かなダンスを披露。ラテンにおいてはもう少し、トレーニングが必要と思われるところもありますが、今後の努力次第では充分戦えるカップルになるでしょう、この先が楽しみな選手です。

兄後幸大・兄後智子 組（PD北海道）

Any's Dancing Club





第4位

観るものを喜ばせ、感動させるPD選手の見本となるようなカップルです。1曲1曲丁寧に観客に向けてアピールする姿は他のPD選手も大いに勉強すべきと感じます。

大島　康・大島由美子 組（PD関東甲信越）

田園調布オオシマダンススクール



第5位



成績は残念な結果でしたが、スタンダード、ラテンの分業化が進むダンス界において、両方踊れるのは貴重な存在です。10ダンスの練習は大変な労力を要しますが、ぜひ継続して頂き、後に続くPD選手の模範となって頂きたいと思います。

JDSF-PD九州ダンススポーツ競技大会 in 宗像

JDSFスタンダード・ラテン各A級からソロダンスまで、全24競技に延べ297組が出場。地元福岡県を中心に九州各県、山口県のほか、東京都からも出場があり、９時半の会場オープンから17時過ぎまで白熱した競技が繰り広げられました。



A級戦 スタンダード表彰式



A級戦 ラテン表彰式



B級戦
スタンダード表彰式



B級戦
ラテン表彰式



C級戦
スタンダード表彰式



C級戦
ラテン表彰式



シニアⅡ A級戦
スタンダード表彰式



シニアⅡ B級戦
スタンダード表彰式



シニアⅢ A級戦
スタンダード表彰式



シニアⅢ B級戦
スタンダード表彰式



シニアⅣ A級戦
スタンダード表彰式



シニアⅣ B級戦
スタンダード表彰式



ジュニア
スタンダード表彰式



ジュニア
ラテン表彰式

第1回 沖縄県春季 ダンススポーツ競技会

2022年3月27日(日)／北中城村民体育館



二千円札に描かれた
守礼の門



首里城火災の
復興状況の看板

JDSF沖縄県連盟は、「サントピア沖縄・ふれあいフェスタ」の競技会の開催にあたり、1995年6月「沖縄県アマチュアダンス協会」として発足。2001年1月現在の「沖縄県ダンススポーツ連盟」に改称。その年8月にはアジア初の開催となった第2のオリンピックとも称せられている第6回ワールドゲームズ in 秋田に、沖縄県連盟からフォーメーションチームを派遣し海外の注目も浴びました。そして2002年4月全国でも12番目の速さで沖縄県体育協会に加盟を果たしました。

今年は沖縄が日本に復帰して50年になります。沖縄県DS連盟主催の競技会は、冬の全国DSフェスティバル in OKINAWA、夏季の沖縄県民大会、秋季の沖縄県ねんりんピック大会、そして本日の第1回春季DS競技会開催となりました。これで、春夏秋冬の四季に合わせ年4回の競技会体制を構築することが出来ました。開会にあたり「競技会に出場の機会も増え、昇級の機会も増えました。今後も会員・役員一丸となって沖縄県DS連盟の更なる発展に向けて邁進していきたい。」と仲嶺英世県連会長の挨拶がありました。

コロナ禍にあって、施設利用制限のためエントリーは先着55組に限られ、無観客の競技会となりました。



仲嶺英世
沖縄県DS連盟会長



玉城　哲　チェア
パーソンの諸注意



審判員

B級戦 スタンダード



照屋瑠華・
野村咲貴 組
(照屋ダンス
スクール)



境康太郎・金城正美 組
(A.K.ダンスインターナショナル)



知名　均・本永美智子 組
(照屋ダンススクール)



B級戦 ラテン



大島　淳・千葉真由美 組
(A.K.ダンスインターナショナル)



境康太郎・金城正美 組
(A.K.ダンスインターナショナル)



照屋瑠華・野村咲貴 組
(照屋ダンススクール)



沖縄豆知識

沖縄では、人が転ぶなどあんまりびっくりした時には、その場所に魂を落としてしまうと考えられているので、それを手で拾って身体に戻す、という風習があります。「まぶやー、まぶやー、うーてぃくーよ（魂よ、帰ってきなさい）」と言いながら、空中の空気を手ですくって身体に戻すような動作をすることです。

この動作を、**「まぶや～（魂）ぐみ（落ちたのを戻す）」**と言います。

こんな沖縄の方言もあります。
チューウガナビラ⇒こんにちわ
ワッサイビータン⇒ごめんなさい
メンソーレ沖縄⇒いらっしゃいませ沖縄
（これは皆様ご存知！）

沖縄大好き



他県から唯一の出場
伊藤直樹・伊藤千津子 組（神奈川県）

糸満市で開催されたサントピア沖縄に出場し、琉球ガラスの赤い色の入賞カップを頂き、大変気に入りました。それ以来10回以上も沖縄の競技会に出場しています。又、昨年に宿泊したホテルが良かったので、今年も同じホテルに宿泊しました。



シニアⅣD級スタンダード3位、
C級ラテン4位



小笠原孝志・玉城嶺子 組
（モモハラ米子ダンスサークル）



根路銘安義・山城充子 組
（ソフィアダンススポーツ）



島袋久二男・玉那覇正子 組
（ダンスサークルドリーム）

C級戦 スタンダード



C級戦 ラテン





岸本貞道・呉屋洋子 組
（ダンススポーツサークル A-ONE）



金城勝三・金良みゆき 組
（レオン・エリ.ダンススクール）



照屋　隆・谷口ミカ 組
（AWASEダンススポーツクラブ）



比嘉　晃・新垣奈々子 組
（アカミネダンスサークル）



安里和浩・与座君江 組
（アカミネダンスサークル）



上原　靖・仲宗根良子 組
（サンフラワーズDC）

D級戦 スタンダード





シニアⅢ D級戦 スタンダード

シニアⅣ C級戦 スタンダード



銘苅隆一・岡野和子 組
（サンフラワーズDC）



シニアⅣ C級戦 スタンダード

D級戦 ラテン



銘苅隆一・岡野和子 組
（サンフラワーズDC）



儀間　剛・大城須枝子 組
（A.K.ダンスインターナショナル）



シニアⅣ D級戦 スタンダード



JDSF 1級戦 スタンダード



大会役員スタッフ一同

第3回全日本ブレイキン選手権報告と2022年度の大会ストラクチャーについて

JDSFブレイクダンス事務局長　白井健太朗



第3回全日本ブレイキン選手権大会報告

３回目の開催となる本大会も、昨年度同様に新型コロナウィルス感染予防対策の観点から無観客試合とし、本年度は限られた関係者の方にのみ観戦いただきました。また、予選大会となる６ブロック選手権においても無観客の試合運営となりました。選手達は通常の大会運営とは異なる環境下での試合参加となりましたが、１年間の成果を発揮すべく最高のパフォーマンスを魅せました。



第３回全日本ブレイキン選手権

- 日時：2022年1月22日、23日
- 会場：渋谷ストリームホール
- 後援：NHK
- オフィシャルパートナー：株式会社ベイエフエム／XPERIA ／株式会社コーセー／東急不動産ホールディングス株式会社
- オフィシャルサプライヤー：カラダファクトリー／RIMOWA ／西川AiR
- PRパートナー：PRTIMES ／ FINEPLAY
- 配信：Youtube ／ Player! ／ Twitch

【実施種目・カテゴリー】

ダンススポーツ競技 ブレイキン種目 1VS1
オープンカテゴリー（高校生を除く18歳以上）男女
ユースカテゴリー（中学1年生～高校3年生）男女
ジュニアカテゴリー（小学生）男女

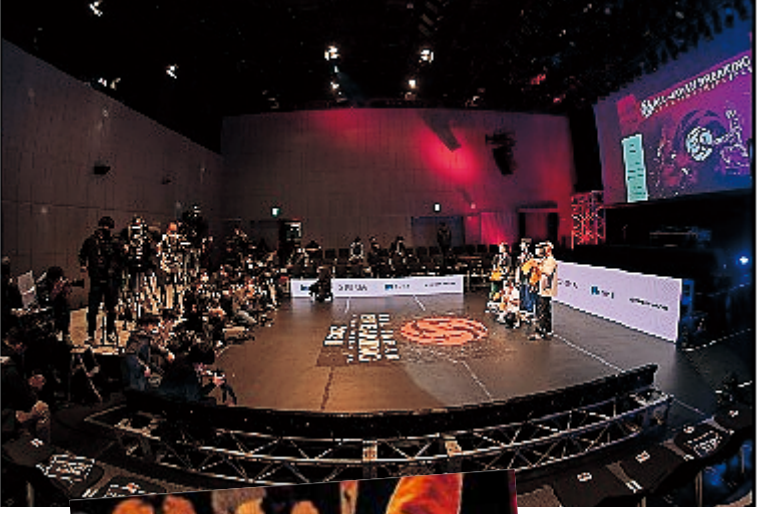
【強化選手選定と表彰について】

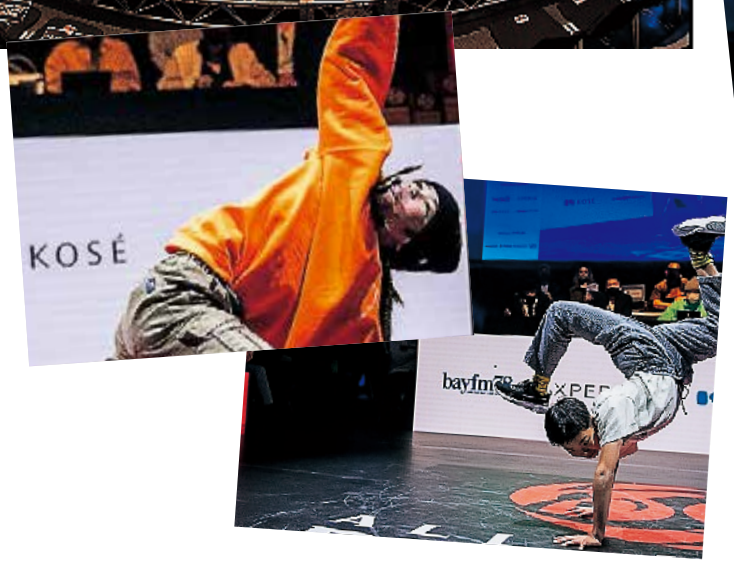
各カテゴリーの優勝者・準優勝者は翌年度の強化選手となる。
各カテゴリーの優勝者はNHK杯を授与することとなる。
ジュニアカテゴリー優勝者は、JOCジュニアオリンピックカップの優勝者となる。

各優勝者















2022年度の大会ストラクチャーについて

2019年より全日本ブレイキン選手権（以下、全日本）をスタートし、2020年から強化選手の採用を開始しました。2021年度は10名の選手が日本を代表するブレイキンの強化選手として活動をしています。2022年度より強化選手を決定するための重要な大会である全日本ブレイキン選手権へのロードマップを刷新し、従来のJDSFブレイキンブロック選手権での出場枠の決定ではなく、JDSF主催大会とパートナー大会から得られるポイントでの国内ランキングを設定し、ランキングの順位に応じて全日本出場枠が付与されるロードマップへ変更します。

ランキングポイント対象大会

- **JDSFブレイキン ジャパン オープン**
  日時：2022年10月～12月（予定）／会場：関東・関西エリア
- **JDSFブレイキン ブロック選手権**
  日時：2022年8月～12月（予定）／会場：全国6カ所（詳細日程は後日発表予定）
- **「マイナビDANCE ALIVE HERO’S 2022 FINAL ブレイキンカテゴリー」**
  株式会社アノマリー主催　日時：2022年4月17日（日）／会場：両国国技館
  ※前日予選からファイナルへ参加が可能。前日予選の内容はリリース後半に記載。本大会ベスト4以上がポイント付与の対象となる。（予定）
- **「Red Bull BC One Cypher Japan 2022」**
  Red Bull Japan主催　日時：後日発表予定／会場：後日発表予定

ランキングポイントについて

ランキングポイントについては、現在のユースカテゴリーとオープンカテゴリーの選手へ適応される予定です。（ジュニアカテゴリーについては、後日発表予定）パートナー大会へは、大会出場時にJDSF BREAKING選手登録を済ませていることが、ポイント付与の条件となります。その他、パートナー大会を含むランキングへのポイント付与に関する規程及び、全日本への出場要件等の詳細はJDSF BREAKINGのウェブサイトにて、後日発表予定です。

（2022年3月8日現在）

	JDSFブレイキン ジャパン オープン	JDSFブレイキン ブロック選手権	パートナー大会
1位	1,500	1,000	600
2位	1,000	850	510
3位	850	600	420
4位	700	420	420
～8位	550	330	330
～16位	400	240	－
～24位	250	195	－
～32位	120	120	－
以下全員	80	80	－

「2022ダンススポーツグランプリin熊本」開催報告



2022年4月10日(日)／熊本県大津町総合体育館

熊本県ダンススポーツ連盟　副会長　**岡田　浩**



２年以上続くコロナ禍のさなかではありますが、「生で全日本レベルの素晴らしいダンスを見たい！」という九州のダンス愛好者の熱い期待に応え有観客で開催いたしました。

開催にあたっては「新型コロナウイルス感染症予防対策競技会」としてJDSFガイドラインを遵守することはもとより、会場入りする選手、観客及び関係者全てに「健康チェックシート」の提出とマスクの着用を義務付け、検温、手指の消毒を実施したのちに入館いただきました。さらに競技フロアーのある１階への立ち入りは選手及び関係者のみとし、観客の皆さまは２階観客席から十分なソーシャルディスタンスを取って観戦。また、全ての選手の控えスペースを背番号毎に指定したことで安心して準備ができるようにしました。

当日の前半競技のシニアⅠラテン世界選手権代表選考戦に、テレビ番組の企画で元フィギュアスケート選手の浅田舞・蜷川博信組のエントリーがあったこともあり、早朝から多くの観客が詰めかけ、350部用意した大会パンフレットも早々に品切れになってしまいました。

２階観客席の座席は全て埋まり多くの方が立ち見での観戦となったため、競技中は司会者からの注意喚起に加え、会場内をスタッフが巡回し密にならないように声かけさせていただくなど万全の感染予防対策を取らせていただきました。

さて、競技の方ですが、最近、有力選手による熾烈なファイナル入り争いが繰り返されているシニアⅠラテンでは、押川・和田組、石田・矢野組、山本・工藤組の３組が安定した力を発揮する一方、ベテランの河野組が惜しくもファイナル入りを逃しました。優勝は押川・和田組、来年の世界選手権の代表権を獲得しました。注目の蜷川・浅田組は第６位でしたが確実な上達ぶりを九州のファンに強く印象付けました。世界選手権を目指し、さらにダンススポーツを盛り上げていって欲しいです。

メイン競技のグランプリスタンダード世界選手権代表選考戦にはシード選手10組を含む47組がエントリーしました。注目は大会ごとに入れ替わる熾烈なシード権争いと、なんと言っても大西組と小嶋・盛田組の直接対決です。まずは１次予選。シード選手をはじめとした有力選手のスピードとパワーのある踊りに目を見張り、息を飲む間に４種目４ヒートからなる１次予選が終了しました。最終予選に進んだ24組の中に、九州から地元期待の福田組を含む３組が入りました。最終予選からはヴェニーズワルツが加わり５種目２ヒートで争われます。ここまでくるとどの組の踊りものびやかで美しく、見ていてため息が出るほどです。ところで神様のいたずらか？１次予選もこの最終予選も大西組と小嶋・盛田組が同じ第１ヒートで踊っています。時折、二組が接近し、闘志があふれてバチバチと音を立てているように感じるのは気のせいでしょうか？準決勝に進んだのは１３組。シード選手のうち１組が涙を飲みました。新たにシード権を手にしたのは４組です。いずれにしても僅差の争いでした。「最近のグランプリは最終予選から熱い」と聞いていましたが全くその通りでした。

準決勝は２ヒートで行われ、公平を期すため偏りがないようヒートシャッフルされます。セミファイナリスト13組の踊りはどれもすばらしく、日本のアマチュアスタンダードの最高峰のダンスを唯々堪能させていただきました。２年間にわたるコロナ対応でふさいだ気分がスッと晴れたような瞬間でした。

さて、いよいよ決勝です。決勝に進んだのは大西組、小嶋・盛田組、五月女組、藤森・金山組の４組に加え、返り咲きの海老原・須田組、そして昨年の三笠宮杯準決７位から今回一気に初ファイナル入りした木下・小西組の６組でした。決勝はヴェニーズワルツとスローフォックストロットがソロ競技、ワルツ、タンゴ及びクイックステップがグループ競技となります。採点結果が1曲ごとにスクリーンに表示され、選手本人も観客もそれを見てハラハラ、ドキドキする仕組みです。

１種目目のヴェニーズワルツは1位が小嶋・盛田組、２位が大西組、以下ワルツ、タンゴ、スローフォックストロットでは小嶋・盛田組と大西組が同点１位、最終種目のクイックステップで優勝の行方が決まるというヒリヒリした展開となりました。白熱のクイックステップの結果は小嶋・盛田組が１位で大西組が２位となり総合結果が確定。小嶋・盛田組が優勝です。小嶋・盛田組、おめでとうございます！

最後になりましたが、遠路はるばる本大会にご参加いただいた選手の皆さん、会場にお運びいただいた観客の皆さん、会場をお貸しいただき様々なサポートをいただいた大津町の皆さん、審判員の方々、JDSF本部派遣役員をはじめ大会役員の皆さん、本大会に関わった全ての皆さんに感謝を申し上げ、開催報告とします。



坂本　省一　熊本県
ダンススポーツ連盟会長



金田　英樹
大津町町長

グランプリスタンダード 世界選手権代表選考



五月女光政・五月女叡佳 組(栃木県)



大西大晶・大西咲菜 組(富山県)



小嶋みなと・盛田めぐみ 組(神奈川県)



藤森春樹・金山咲月 組(東京都)



海老原竜太・須田美咲 組(千葉県)



木下将希・小西乙愛 組(千葉県)

B級戦 スタンダード



黒川勝己・
黒川美津子 組(熊本県)

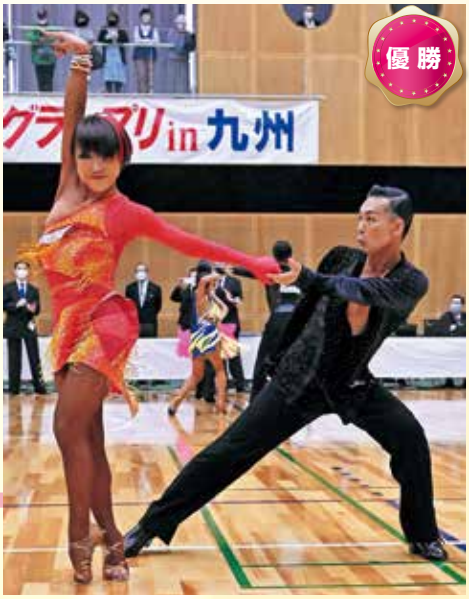
B級戦 ラテン


優勝
片倉幹太・
中山ここ 組(熊本県)

シニアⅠラテン 世界選手権代表選考戦



石田茂之・矢野美帆子 組(茨城県)



押川慧悟・和田知世 組(神奈川県)



山本哲郎・工藤由美子 組(東京都)



村瀬賢一・小笹詩織 組(埼玉県)



村田知紀・北見奈稚 組(神奈川県)



蜷川博信・浅田　舞 組(東京都)



www.toto-dream.com www.toto-growing.com 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス
第103号(Spring)
令和4年5月発行

■発行人／山田　淳(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
■編集人／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
■編集長／佐藤篁之(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部長)
■企　画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-2 東屋ビル7階　TEL.03-6457-1850　FAX.03-6457-1857
http://www.jdsf.or.jp

ⓒ本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。